

目次

巻頭言 インフラと人との関わりを問い直す一冊に 岩城一郎 …………… 1

第1章 インフラ再考―解像度を上げて出会うインクルーシブな事例 …………… 9

あなたも私もインフラユーザー …………… 10

第2章 解像度を上げて「私」を見つける …………… 21

多様な「つかい手」への意識 …………… 22

「私」を見ることの意味

社会包摂に向けた「行動変容を促す装置」としてのインフラづくり―公共インフラのDE&―

佐々木葉、中村美亜 …………… 30

いかに「耳を傾ける」か 三木那由他 …………… 42

オープンスペースで「コトバ」を探せ 小山田那由他、熊谷晋一郎、羽野暁 …………… 46

見落としてきた「私」

障害は欠落ではなく「異彩」―他者との違いを価値に― 松田文登 …………… 60

公共空間における触知サインの可能性―見えない人と見える人が一緒によむ地図― 齋藤名穂 …………… 64

視覚障害者移動支援ロボット「Aースーツケース」の開発とその展望	木村駿介	68
カムダウン・クールダウンを手がかりとして公共空間の在り方を問う	橋口亜希子	72
社会基盤のサインデザインと多様性	定村俊満	76
公園と、野宿者の生活	いちむらみさこ	80
「インフォーマルなもの」から考えるインクルーシブインフラ	小野悠	84
災害復興力を強化するジェンダー・多様性の視点と課題	浅野幸子	88
アーバニズムとしてのスケートボードディング	藤奏一郎	92

第3章 つかい方の解像度をあげる …………… 97

もっと人にオープンなスペースの時代へ	……………	98
--------------------	-------	----

つかうことの意味

ライフスタイルから考えるこれからの公園	真田純子	108
オープンスペースに求められてきたもの―政策の変遷と今―	石川啓貴、松岡里奈、田中里佳、嶋田博文	114
ロンドンのインクルーシブデザイン	坂井文	120

見落としてきた「つかい方」

都市の自然と暮らしの「景営学」―ガーディングからランドスケープピングへ―	武田重昭	126
河川空間における地域とつながりの強いオープンスペースのつくり方―上西郷川を例に―	林博徳	130

小さな公園における「インクルーシブネス」 岩瀬 諒子 …… 134

日常と非日常の間 星野 裕司 …… 138

河川空間が包容する「居場所」と「賑わい」の両義性 菅原 遼 …… 142

非日常的な実験「Parking Day」を通して日常的な風景を模索する 小原 拓磨 …… 146

第4章 「私たち」のインフラを育てる社会 …… 151

私たちのインフラを育てる社会 …… 152

私たちの手でつくる、守る

協働によるむらづくり―自分たちの地域は自分たちの手で― 澤村 和明 …… 158

地域の底力―田代公園キャンプ場オープンに向けて― 畑元 正司 …… 170

農業・農村の技術支援―水士里サポート隊紹介― 高橋 幸照 …… 174

石積みを通じた地域づくり―技術をつなぎ風景を残す― 亀井 彩香 …… 178

私たちの手で育む、交わる

公共空間である駅を育み、ブレیکنの聖地「世界のミゾノクチ」へ 石川 勝之 …… 184

使われなくなったインフラを地域の憩いの場に 鈴木 昭彦 …… 188

分身ロボットで実現を目指す、孤独のない適材適所社会 吉藤 オリイ …… 192

対話で共創するインクルーシブインフラ―デンマークでの経験を川崎市に生かす挑戦― 岡田 恵利子 …… 196

世代をつなぐまちづくり 桑子敏雄 204

主役は私たち！

主役は住民！ 地域のインフラ整備から未来を考える 神野直彦、徳永達己、後藤千恵 214

おわりに 227

インフラ再考を通じて私たちがこれからできること 228